

平成24年度防災教育指導者研修報告

教 諭 丹 哲 治

内 容	研修日時
<p>第1回            講義Ⅰ「学校における防災教育の在り方」            解説「秋田県における防災教育について」            情報交換「防災教育年間指導計画の活用」            講義Ⅱ「DIG(災害図上訓練)の活用」            講義Ⅲ「防災教育における放射能に関する基本的な知識について」</p> <p>第2回            講義Ⅰ「東日本大震災から学ぶ学校の防災対策と秋田県で発生した歴史地震」            解説「防災リーフレットの活用について」            講義Ⅱ「自然災害への対処について」            協議「被災地視察を通して」            情報交換「防災教育年間指導計画や防災マニュアルに基づく各校の実践について」</p>	<p>5月22日 10:00～16:00            11月 6日 10:00～16:00</p>
	計2日間
	研修者氏名(教科名・校務分掌)
	丹 哲治(数学科・3年担任、総務、進路)
<p>研 修 の 成 果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 防災教育の重点事項              発達段階に合わせたもの（高校生は自らの安全確保と周囲の安全への貢献等）とし、地域に合った避難訓練を実施する。年間指導計画では様々な場面で3回以上行うことが望ましいということである。</li> <li>・ 各校における防災教育              避難訓練実施後に防災リーフレット（以前生徒全員に配布）を活用するなど大震災の教訓を踏まえた展開をする。防災リーフレットには緊急時の連絡方法の確認や約束</li> </ul>

などが家族でも話し合えるようになっている。

- ・被災地視察報告

災害時の行動原則は訓練によって培われるということを改めて認識させられた。

①想定にとらわれない ②その状況下において最善を尽くす ③率先避難者たれ

「釜石の奇跡」は奇跡ではなく、日頃の訓練によって必然的に起こったことであることがわかった。

- ・実践例「雄物川高校の避難所としての在り方」

発災後に避難所となることを想定した訓練を実施した。市役所が中心となって各施設から物資を調達（体育館を個人スペースに区切るフェンスや毛布、非常食）し、学校として何ができるか等の体験活動を行った。停電を想定するなど本格的なものとなるため、連絡手段は手書きの掲示板にするなどかなりの工夫が必要であることがわかった。